

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	当院におけるがん・生殖カウンセリングと妊孕性温存療法の実態調査	
1. 研究の目的と方法	本研究は、がん・生殖カウンセリングを受けた成人患者の妊孕性温存実施率、妊孕性温存による凍結配偶子（凍結した精子・卵子・卵巣組織）の使用率、およびその妊娠・出産率に関するデータ解析を行い、将来のがん患者に参考となる知見を提供することを目指します。 研究方法は、がん・生殖カウンセリングを受けた成人患者さんの電子カルテからデータ収集し、解析します。	
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2025年3月31日まで、研究の実施を予定しています。	
3. 対象となる方等	2018年1月～2022年12月までに、当院生殖・内分泌科外来にて『がん・生殖カウンセリング』を受けた成人の患者さん、およびがん・生殖医療に関する看護相談をした成人の患者さん	
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。
	(3) 情報の種類	① 患者さんの背景：性別、年齢（カウンセリング時、凍結した精子・卵子・卵巣組織の使用時）婚姻、妊娠・出産歴、パートナーの有無、パートナーの年齢、 ② がん・生殖カウンセリングの対象となる病気（以下、原疾患）の治療施設 ③ 原疾患分類 ④ 原疾患名 ⑤ 原疾患診断日 ⑥ 原疾患の初発 or 再発 ⑦ 原疾患の進行度 ⑧ 予後 ⑨ 予定された原疾患治療内容、治療開始までの時間 ⑩ がん・生殖カウンセリング施行のタイミング ⑪ がん・生殖カウンセリングから妊孕性温存療法実施の有無を判断するまでの時間 ⑫ 妊孕性温存治療の実施有無 ⑬ 妊孕性温存治療の種類 ⑭ 妊孕性温存療法実施後に実際に施行した原疾患治療内容 ⑮ がん治療後の性腺機能（女性：自発月経の有無、男性：精液検

		査結果) ⑯ 凍結してある精子・卵子・卵巣組織（以下、温存配偶子）の使用有無 ⑰ 温存配偶子を用いた不妊治療の妊娠有無 ⑱ 温存配偶子を用いた不妊治療の出産有無、児出生時の在胎週数、児出生時の体重	
	(4) 情報の取得の方法	診療録からデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学附属病院 看護部
		氏名	稲川 早苗
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 准教授 岸裕司	
(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。		
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2023年10月頃～		
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学附属病院 4K 生殖内分泌外来 研究責任者：稲川 早苗（いながわ さなえ） 電話番号：03-3433-1111（内線 3525） 対応時間：平日 09：00 ～ 16：00		

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。

研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。